

黙示録18章：バビロンの崩壊

17章15－18節

十本の角と獣によって、バビロンが破壊される。

バビロン → この世(宗教、政治、経済・商業)

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。(ヨハネの手紙第一 2:15-17)」

1－3節：御使いによる崩壊の宣告

「大バビロンが倒れた」： かつてのバビロンは、世界の富が集まっているところであった。けれども、メディア・ペルシヤに滅ぼされ、ギリシヤ時代には廃墟となった。今も遺跡があるだけで廃墟である。(イザヤ 13:19-22)

「悪霊の住まい」： 今、バビロンの町に遊牧民は近づかない。理由は「悪霊が住んでいるから」。

「地上の商人たちは」： 17章では宗教の中心バビロンが獣によって滅びることが預言されていた。18章では、世界の商業の中心地が滅びることが預言されている。

4－8節：女への神の裁き

「わが民よ。この女から離れなさい。」： 金銭を愛することへの警告。

「しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。衣食があれば、それで満足すべきです。金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。(テモテへの手紙第一 6:6-10)」

「神は彼女の不正を覚えておられる」： 抵抗できない人たちのために、神は必ず報いてくださる。

「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい。あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。(ヤコブの手紙 5:1-6)」

「私は女王の座に着いている者であり」： 悪い女が、金持ちの男の相手をして金を儲けるように、自分は

何の苦勞もすることなく、他の人を利用することによってぜいたくに生きている姿。他の人が苦勞して働いたものを、奪い取っている。

1. 最近の金融危機は、実体の無い利益を求めてマネー・ゲーム(money game)をしていた人たちによって引き起こされたもの。

2. 聖書には、人のパンをただで食べることに對する戒めがある。

「私たちは、あなたがたのところにいるときにも、働きたくない者は食べるなど命じました。ところが、あなたがたの中には、何も仕事をせず、おせっかいばかりして、締まりのない歩み方をしている人たちがいると聞いています。こういう人たちには、主イエス・キリストによって、命じ、また勧めます。静かに仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。(テサロニケ人への手紙第二 3:10-12)」

「一日のうちに」富は一日のうちでなくなり得る。

「そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。』(ルカ 12:15-21)」

9-19節：この世の人たちの悲しみ

この世の悲しみには希望がない！

「神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。(コリント人への手紙第二 7:10)」

1) 地上の王たち(9-10 節)

2) 商人たち(11-17 節前半)

商品とは？

a) 「金・銀・宝石・・・」ぜいたく品。無くても生活できるもの

b) 「肉体」お金のために、自分の体を売る人さえいる。臓器売買、売春・ポルノ(pornography)等。

「人のいのち」金儲けのために、命を落とす人もいる。

c) 「心の望みである熟したくだもの」貪欲のゆえ！

広告の方法 - 1) 本当は必要ないのに、人々に買いたい欲求を起こさせる

2) 買わないと不安にさせる。買っても満足させない。物の奴隷にさせる。

人間にある欲求

空気の欲求、水の欲求、性の欲求・・・

① 靈的な欲求がある

「私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。(詩篇 42:2)」

② 人は、靈的な欲求を他のもので満たそうとする。

例: サマリヤの女(ヨハネ4:5-18) 彼女は神への渴きを男との関係で満たそうとしていた。

③ 神の与える命は、ただで受けることができる。

「渴く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。(黙示録 22:17)」

3)海運の人たち(17-18 節)

「遠くに離れて立っていて」ニューヨークの世界貿易センター(One World Trade Center)に似ている！

20節： 聖徒たちの喜び！

私たちは、どちらに楽しみを置いているか？

「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。(マタイ 6:19-21)」

21-23節： 消えていく日常の喜び

1)音楽 2)産業 3)街灯 4)結婚式

「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついたりしていました。そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。(マタイ 24:37-39)」

「魔術に騙されていた」麻薬とも訳せる。商業主義は魔術や麻薬みたいなもの。

24節： 流血の罪

ローマには、コロセウム(Colosseum 円形競技場)があった。ヨハネが生きていた時のローマ皇帝ドミティアヌス(Domitian)から、ここでキリスト者が猛獣に殺されるのを娯楽として見せていた。

人の命によって金もうけをしていたわけだが、その裁きは必ず下る。

最後に・・・どっちの道を進んでいますか？

「いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。(マタイ 16:25-26)」

